

絵本ではぐくむ 子どもの感性

東宇治図書館

図書館司書・絵本専門士

主任 西村 恵里香



東宇治図書館 主任 西村 恵里香



< 略 歴 >

平成 7年 3月 図書館司書資格取得

平成 8年 9月 中央図書館 採用

図書館係 成人書担当

平成16年 4月 // 成人書担当チーフ

平成26年 4月 東宇治図書館 異動

児童書担当チーフ

平成28年 5月 絵本専門士（国立青少年教育振興機構管轄）認定

現在に至る

§ 絵本とは…

- まだ字が読めない子どもたちのためにという事を前提に作られた本のことを言います。

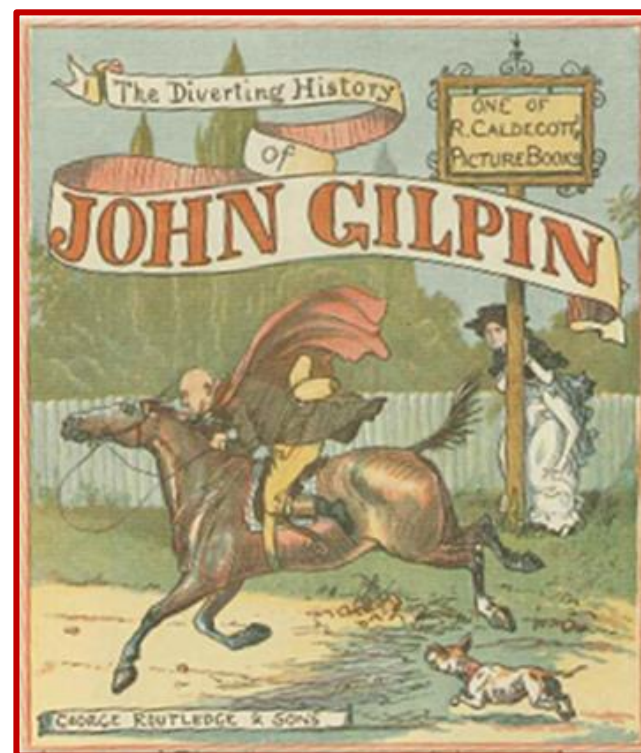


「もじゃもじゃペーター」
ハインリヒ・ホフマン
1845年ドイツ

聖書の道德精神
を諭す。
しつけ・戒め系
要素が高い内容。



「もじゃもじゃ」
「ねないこだれだ」
せなけいこ/作 福音館書店



「ジョンギルピンのゆかいなおはなし」ほか16冊
ランドルフ・コールデコット
1870年代 イギリス

娯楽的内容。絵
と言葉が互いを
補って物語の世
界を広げる。

まだ文字が読めな
い子どもたちでも
絵を見るだけで物
語がわかる絵本

現代絵本の源流

§ 絵本とは…

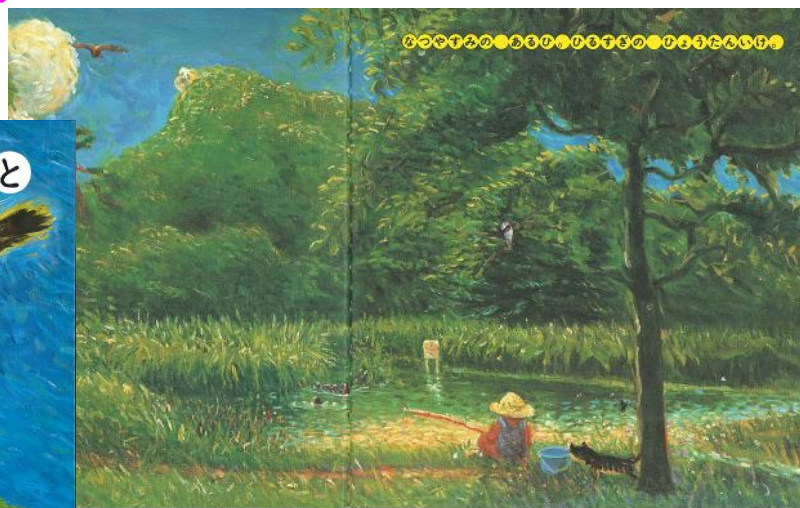
1.ハード面からのアプローチ

- 絵とテキスト（言葉・文章）と、タイポグラフィの融合から成り立っている本のことを絵本と言います。

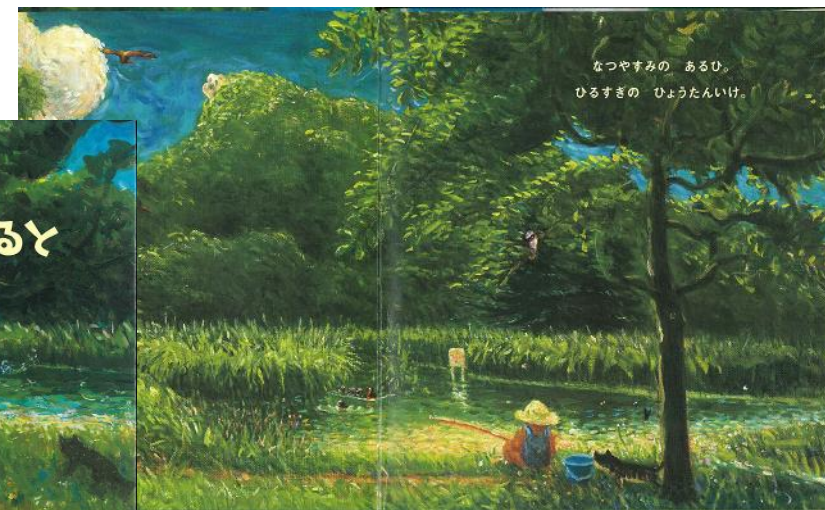
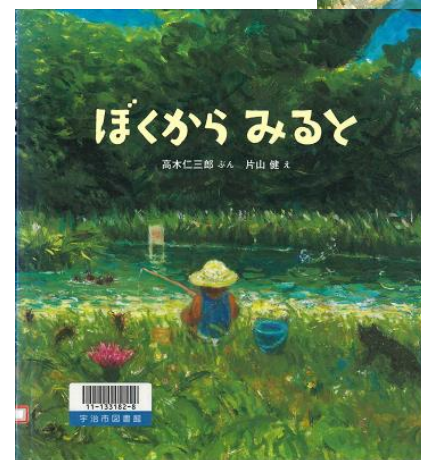
→絵とテキストの融合がちょうどよいもの（絵を文章と言葉でほどよく補っているもの）が、いわゆる“よい絵本”と言われています。

例) 「ぼくからみると」

高木仁三郎/文 片岡健/絵



福音館書店（1995刊）



のら書店（2014年刊）

§ 絵本とは…

2.ソフト面からのアプローチ

- 絵本は＜読みあい＞のT・P・Oにおいて一回性（その時の1回限り）で展開し、終わるものです。

→どんな状況下であっても“全く同じ”であることは絶対にありません。

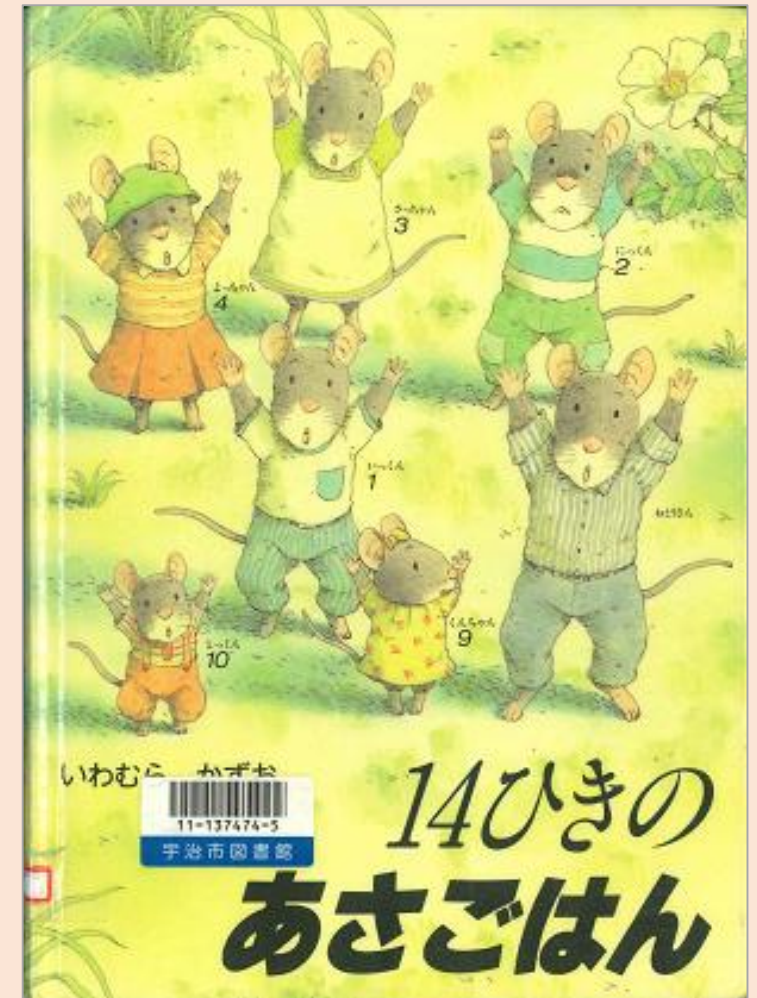
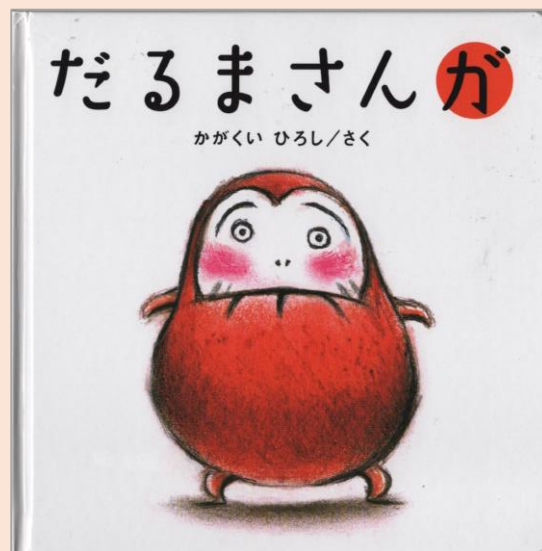
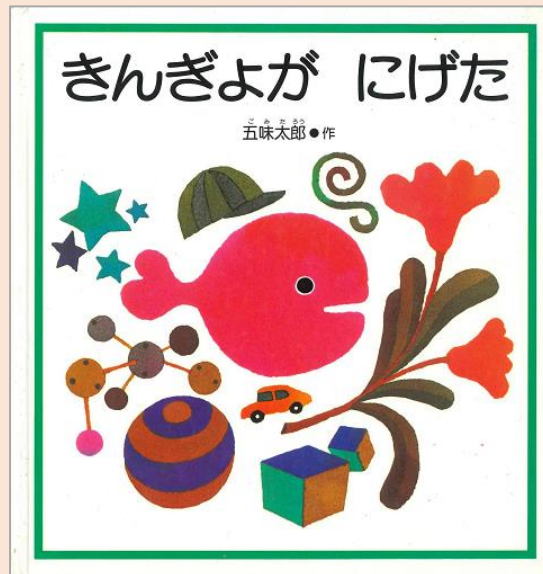
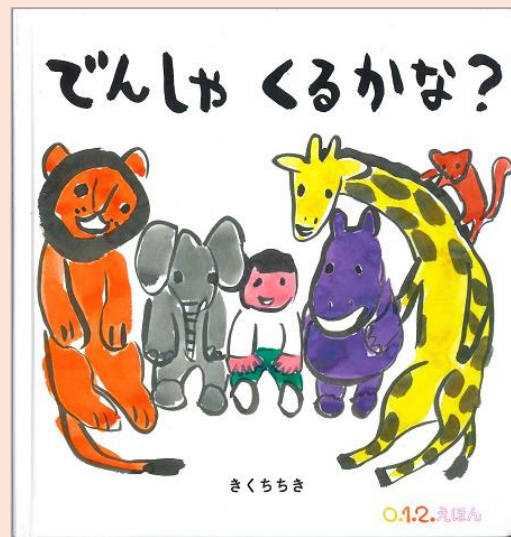
- 残念ながら…教育的なものではありません。

→幼少期にいかに多く絵本に親しんだからといって、将来賢い人間になる・読書好きになるとは限りません。あくまで、“読んでもらった”という経験値が上がり、そのひとときを楽しむものにしか過ぎません。

それなのに、なぜ絵本（読み聞かせ）が大切だといわれるのでしょうか…？



子どもの感性とはどんなものなのか、読み聞かせを通して体験してみましょう



§ 読み聞かせで はぐくまれる子どもの感性

絵本（読み聞かせ）が大切であるといわれる理由

絵と言葉を通して

- 知らず知らずのうちに語彙力が上がる。
- 読み聞かせは、会話の一種であるため、人の話が聞ける子になる。
- 非認知能力が上がる。

人としてのコミュニケーション力を身につけることができる。

子どもの読書活動とは…

読み聞かせを通じて言葉を学び、感性をみがき、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、これから強く生きる力を身に付けていくこと。

ポイント

子どもに初めて絵本を手渡す行為は、周囲の大人の影響に左右されます。
身近にいる大人たちが環境を整えていく必要があります。

本日ご参加いただいた皆さまへの読み語り



「まいごのどんぐり」
松成真理子/作 童心社

ご清聴ありがとうございました